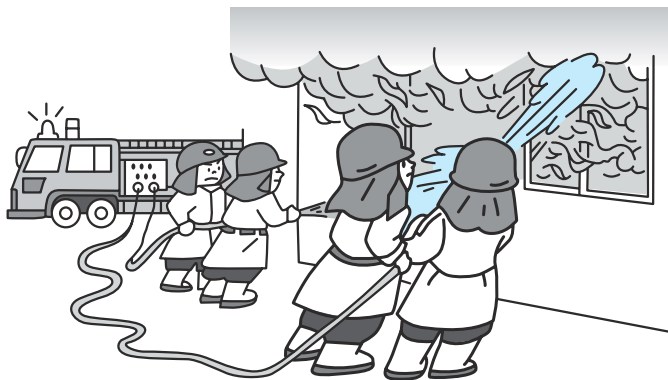


# 防災について考えてみませんか

九月一日は「防災の日」です。これは、一九二三年（大正十二年）のこの日に起きた関東大震災の教訓を忘れないという意味と、この時期に多い台風への心構えの意味も含めて一九六〇年（昭和三十五年）に制定されたものです。

最近では、八月十六日に宮城県で震度六弱の地震が起きました。幸い死者は出なかったものの、今一度、防災についての意識を改める必要があるのではないのでしょうか。



## いざ地震が起ったら

### 屋内にいたら

倒れかかる家具などから身を守るため、防災頭巾や座布団などで頭を保護しながら、テーブルや机の下に逃げ込んでその脚部分を押さえましょう。さらに、ドアを開けるなど脱出路を確保し、懐中電灯等の明かりも確保しましょう。

### 屋外にいたら

建物やブロック塀の倒壊や窓ガラスの落下などの危険を避けて、空地などの安全な場所に避難しましょう。

## 被害の拡大を防ぐ行動を

### 火災の拡大を防ぐ

地震の際、火元の確認と初期消火に努めることは被害の拡大を防ぐ基本です。ただし、最近のガス栓は大半が地震で自動的に切れるようになっていますので、まずは身をかがべた後でかまいません。

また、大震災の際にストップしていた電気の供給が再開されたときに、つけっ放しのアイロン等に電気が流れるなどして火災が発生することが少なくありません。避難をする際には、電気ブレーカーを落とす必要があります。

### 交通の混乱を防ぐ

被災地では、救急・救助活動や消火活動のため、交通規制が行われます。自家用車で避難はかえって遅れの原因になりかねず、また、救急活動の妨げにもなるので厳禁です。

また、自動車を運転している場合には、道路端に停車し、ラジオなどで情報を収集しましょう。車を離れて避難する際には、救急活動の支障とならないよう、キーを付けたままにしておきましょう。

### 助け合いの行動を

体の不自由なお年寄りや身体障害者の方、妊婦の皆さんや小さな子ども達などは、避難の際に周りの手助けがどうしても必要です。自らの身の安全を確保するとともに、近所の手助けを必要とする方への援助が、災害時には大いに求められます。

## 被害の拡大を防ぐ行動を

**家族の集合場所・連絡方法**  
自分が助かったら、すぐに心配になるのは家族の安否です。あらかじめ家族みんなで集合場所を決め、通勤や通学先にいる場合の連絡方法を確認しておく必要があります。

### 災害伝言ダイヤル

地震などの災害時には、通話が被災地域に集中し電話がかりにくい状況になります。そこで導入されたのが、災害用伝言ダイヤルです。「一七一番」の番号でガイダンスにしたがって音声メッセージを録音しておく、家族などが「一七一番」をダイヤルして聞くことができます。このサービスは、ほとんどの固定電話や携帯電話から利用できます。

また、災害用伝言板サービスは、携帯電話のインターネット接続サービスを利用してテキストメッセージの安否情報を伝言板に登録し、それを他の人が閲覧して安否確認を行うものです。閲覧は、携帯電話のほかインターネットが利用できるパソコンからできます。